

LOVE

——共に生き、共に感じる——

看護に人のぬくもりを



水野 しづ

日本カトリック看護協会会長
(財)聖マリアンナ会 東横第三病院・看護部参与
元聖マリアンナ医科大学病院副看護部長

日本カトリック看護協会(Japan Catholic Nurses Association)は1956年、ローマ教皇庁による国際カトリック看護協会加入要請を機に、翌1957年結成された。看護職上の技術、知識、看護精神の向上と社会福祉への貢献をめざす同協会は、現在、カトリック者のみならず、協会の主旨に賛同する保健婦、助産婦、看護婦(士)、准看護婦(士)、ケースワーカーなど医療に携わる人々約400名によって支えられている。

このたび、1981年より三代目会長として活躍中の水野しづさんに、協会のことや現在の看護婦を取り巻く状況などについてお話を伺った。

この道50年 看護婦として戦後を歩む

御年71歳になられるとはとても信じられない程かくしゃくたる水野さんの、看護婦としての歴史は50年を数える。カトリックの信仰をもつ友人の姿勢にひかれ、1938年、洗礼を受けるとほぼ同時に、看護婦になる決意を固められたそうである。

しかしその直後肺結核を患い、療養を余儀なくされた。軽快されてから、小金井市の桜町病院、愛知県瀬戸市の

公立病院などで看護の道を歩まれた。この間、ご主人を亡くされるという苦境を乗り越え、4人のお子さんの養育と看護婦としての仕事を両立。そこには、深い信仰によって支えられた部分も大きかったと拝察する。

1965年、再び桜町病院に総婦長として戻られると同時に、以前からその活動に共鳴するところのあった日本カトリック看護協会(J.C.N.A.)に参加。現在に至っておられる。

「日本カトリック看護協会は社団法人でもなく、まったくの小さな任意団体です。しかし、世界55カ国が加入する国際カトリック看護協会(International Committee of Catholic Nurses)の一員として、4年に一度の世界、地区大会等では国際的な知識の交流、親睦をはかるなど、各国の看護の現状を理解する上で大きな意義を担っていると思います。日本における協会の支部は16。各支部は月に1〜2回の集まりをもって、それぞれの立場でできる範囲の福祉活動を自発的に行っています。例えば日曜を利用して何人かの有志が、自分の病院や他の病院に出かけて老人介護をするとか、在宅で孤独に悩む病人を訪問するとか、教会のメンバーとバザーを開いたり、無料健康相談を受け付けてアドバイスしたり、血圧測定をしたり……。その行為自体は、非常に目立たない、地味なことを続けてきているわけです。」

人間を見失わない医療と看護の実践

「日本カトリック看護協会(J.C.N.A.)では、1993年7月、第35回の全国大会とあわせて、“国際カトリック看護協会第6回アジア地区大会(CICIAMS)”を、名古屋で開催することになりました。

近年、医療技術の急速な進歩は生命倫理の諸問題を生み出し、難問は続出しております。アジアに住む医療従事者として、私達は人間を見失わない看護の原点に立ち返り、看護を広い視野で見直す必要に迫られています。そこでアジア諸国の医療関係者が一堂に会し、一般医療倫理の現状と問題を披瀝しあい、私達のめざす、福音に

基づく医療、倫理はどうあるべきかを考え、今日の歩み方を見いだそうとするのが、この大会の目的です。

21世紀は『心の時代』だと思います。看護の仕事を通して常に思うことは、科学至上主義が医学の進歩に伴い技術が中心の医療に拍車をかけている。豊かな社会の中であり余る物の洪水に浸っている。このような現状をどうしたらいいのか。目を外に向ければ、人間疎外、非行、暴力……。世界のどこかで戦争がたえまなくおこなわれています。心と物がいれかわったような時代です。愛の失われかけた世界に、愛することを訴えたいと思います。

私共が、まず人間として、カトリック信者として、より大きく成長し、磨かれて行くことです。この心構えを堅持する者の力を結集し、その真心から溢れる祈りに支えられて、協会の未来がひらけ、その充実と発展が期待できるものと思います。」

「私は看護婦という職業を選んで本当によかったと思っています。やればやるほどやり甲斐のある仕事ですもの。人間の生から死まで関わる仕事があるのでしょうか。これほど『人間』を学ぶことのできる場はありません。人生には何一つ無駄なものはないと思います。一つの出会いが人生を左右することもあると知り、ご縁の大切さ、人の身になって考えることを学びました。患者さん一人ひとりが、私の人生の師でした。かけがえのない私の宝物ですよ。」

求められる、医療現場の改善

これほどやりがいのある素晴らしい仕事なのに、満足はいく看護ができないと、「燃えつき症候群」にかかってしま

う看護婦たちを、これ以上増やしてはならない。

医療の現場が看護婦たちの白己実現の場となり、本来の看護を実践できる場にするためには、医療現場の改善に向けて行政のこれまで以上に本腰を入れた医療現場の見直しが望まれるのではないだろうか。

お知らせ

国際カトリック看護協会 第6回アジア地区大会

International Committee of Catholic Nurses



会期 1993年7月24日～27日

会場 名古屋国際会議場

〒456 名古屋市熱田区熱田西町1-1

連絡先 日本カトリック看護協会

〒161 東京都新宿区下落合4-16-11

聖母女子短期大学内 ☎03-3950-0171

なお、今大会の開催援助募金にご協力をお願いしています。